

準備委員会企画シンポジウム

コミュニケーションに潜むいじめのリスク

【企画趣旨】

文部科学省では「いじめについての基本的な認識」として、「いじめはどこでも起こりうる問題である」と明示している。医学には未病という考え方があるが、学校内外でのさまざまなコミュニケーションにもいじめとして発現する前の段階のやりとりがあると考えられる。何気ないコミュニケーションに潜むリスクに気づき、それに注意を払うことは、いじめの未然予防にとっても重要なことであろう。本シンポジウムでは、子どもたちの間で行われている日常のコミュニケーションに注目し、それらの行動に潜むいじめのリスクとその予防について、教育心理学的研究に限定せず、社会心理学や認知科学といった視点からも話題提供を行い、指定討論者やフロアとの議論を通して、いじめ防止／対策の糸口を見出す。具体的には、透明性錯覚が、いじめる側、いじめられる側、彼らをとりまく人々のそれぞれの行動や認知にどのような影響を及ぼしうるのかについて考察する。(武田)。つづいて、コミュニケーションにみられる「いじり」を紹介し、素朴概念としてのいじりがいじめとどうつながりうるのかを議論する(瀧澤)。また、ネットいじめの変遷を踏まえつつ、ネットコミュニケーションに含まれるリスクについて話題提供をする(黒川)。さらに、教育現場からの視点として、いじめの認知と発達段階から、学級開きと日常の接し方について話題提供をする(吉澤)。これらの話題提供に対して指定討論者(三島)によるコメントを踏まえ、フロアも含めた議論を通じて、日常的なコミュニケーションにはいじめのリスクがあるということを知るだけでなく、いじめの予防のヒントが得られる場としたい。